

「第三次市川市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)」についての  
パブリックコメント実施結果

市川市 環境部 総合環境課

○実施期間

令和7年1月18日(土)～令和7年2月16日(日) 30日間

○ご意見を提出していただいた方の人数及び件数

意見媒体	人数	件数
① インターネット	9人	26件
② ファクシミリ	0人	0件
③ 総合環境課への提出	2人	2件
④ その他公表場所への提出	0人	0件
⑤ 郵送	0人	0件
⑥ その他	0人	0件

○ご意見への対応

対応内容	件数
① ご意見を踏まえ、修正するもの	0件
② 今後の参考とするもの	23件
③ ご意見の趣旨や内容について、考え方を既に盛り込み済であるもの	3件
④ その他(案そのものに対するご意見でないもの等)	2件

○ご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
1	単に排出量だけでCO <sub>2</sub> のみを削減対象とするのではなく、他の地球温暖化係数が何十万倍も高いガスも削減にも取り組んだ方が良いと思う。	効果的に温室効果ガスを削減していくためには、最も大きな割合を占めている二酸化炭素を中心に取り組むことが必要と考えていますが、温室効果ガス全体の削減にあたり、いただきましたご意見は今後の参考とさせていただきます。	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
2	<p>発電による二酸化炭素排出係数低下の要因の一つとして、原発の再稼働があげられているが、原発を巡っては未だに世論は分かれ、国政も態度が曖昧である。いつまで原発が稼働し続けるのか、あるいは廃炉を命じられるのか分からない中、将来計画の数値推計に用いるのは不確定要素が強すぎると思う。また、本市の原発に対するスタンスを問います。</p>	<p>二酸化炭素排出係数の低下は、国の地球温暖化対策実行計画に基づいています。</p> <p>原発の再稼働については、本計画の範囲外となります。</p>	④
3	<p>食品ロスは環境にも経済にも大きなダメージがあるので強く推し進めるべきです。大手コンビニなどでは食品を見切り品として売ること未だに消極的です。市として事業者に対して条例整備などの強硬手段を使ってでも取り組んでもらいたいです。</p>	<p>食品ロスへの取り組みは地球温暖化対策として必要なことと認識しております。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②
4	<p>エコドライブについては、県公安委員会等と連携して自動車免許講習等に必修科目として取り入れた方が周知率がいっそう高まると思う。また、行政の横断的な取り組みに繋がリイメージも良くなると思います。</p>	<p>エコドライブは地球温暖化対策として必要なことと認識しております。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②
5	<p>緑地保全の面では市文化会館前の街路樹が伐採された件が記憶に新しいです。当該案件の是非はともかく、今後も直面しうる課題でありますのでその対策方針を明示していただきたいです。</p>	<p>いただきましたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただき、事案を主体的に検討する所管部署に情報共有させていただきます。</p>	②
6	<p>ここ数年市内駅前の高層マンションの建設ラッシュが過ぎます。市内に新規マンションを建設する際は総面積の一定割合を緑化し維持する義務を課すことはできないのでしょうか。</p>	<p>宅地開発を行う際は、P64「宅地開発に伴う事前緑化協議」にあるとおり、市川市宅地開発事業に係る手続き及び基準等に関する条例に基づき、総面積の一定割合の緑化施設を確保することとしています。</p>	③
7	<p>本市は江戸川河川敷をいう広大な敷地を有していますから、国土交通省などと協議して川沿いに植樹することはできないのでしょうか。市川市の魅力向上と一石二鳥だと思います。</p>	<p>いただきましたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただき、事案を主体的に検討する所管部署に情報共有させていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
8	<p>プラスチック削減は大事ですが、コロナ以降の衛生意識の高まりからプラスチック由来の衛生用品の需要は高止まりすると思われ削減は簡単ではないですし、そういった物はリサイクルも難しいと聞きます。また、そうでない物は紙に代替する動きもありますが、その原料は二酸化炭素を吸収する樹木です。現在は間伐材などが主に使われていますがそれも安定的な資源ではありません。プラ・紙どちらも一長一短であるという観点が必要だと思えます。</p>	<p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②
9	<p>太陽光パネルは良いのですが、耐用年数を向かえれば廃棄し新しいものを再設置し各過程で当然温室効果ガスが発生します。パネルは特殊素材が用いられているため廃棄には温室効果ガス以外の環境問題が生じているとの報道も一部ありました。この点について市はどのようにお考えでしょうか。</p>	<p>太陽光パネルの廃棄については、現在国が検討していることから、国の動向を注視してまいります。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②
10	<p>ごみ焼却のエネルギーを電気に換え、それを活用するのは大変素晴らしいです。が、同時にごみの減量も進めていけばごみ焼却エネルギーによる電力供給量が減り、減った分は、結局は通常電力に頼らざるを得ない事態になるのではないのでしょうか。</p>	<p>本市は更なるごみの減量を目指してまいります。一方、熱の有効活用の向上を図るべく、建設予定の次期クリーンセンターでは現行の施設を上回る熱回収率の向上を見込んでおります。</p>	②
11	<p>「クールビズ・ウォームビズを推進」では固定観念に囚われている企業には無視されます。「通年でクールビズ・ウォームビズを原則とし」くらいの少し踏み込んだ表現にするべきです。</p>	<p>クールビズ・ウォームビズは事業所にご協力をいただき実施していく温暖化対策の活動と認識しております。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
12	<p>事業者や市民向けに各種補助金や施設やコミュニティバスの充実を図るとしてありますが、それらには財源の話が絶対に必要です。本市財政は比較的安定ですが、本案の内容をすべて実行し目標達成を成し遂げるのであれば恐らく相当な金額が必要と考えます。どう財源確保するのか財政上の想定も加えるべきだと思います。</p>	<p>財源については、補助額や事業費により変動があり、想定が困難ではありますが、事業実施にあたり必要な財源を確保できるよう努めてまいります。</p>	②
13	<p>本案には手軽に始められることから、ある程度費用をかけて対策を講じないといけないことまで幅広くあります。残念ながら市民全員が豊かではないゆえに、省エネ家電への買い替えなどは補助金があったとしても物価高の中では大きな壁です。環境への意識も大事だが足元の収入が心もとない人たちはとてもそれどころではないです。前提として市民の懐が暖かくなるような政策(企業への賃上げ要求等)も強く押し進めてください。</p>	<p>ご意見いただきました事案は本計画の範囲外のご意見となりますので、所管部署に情報共有させていただきます。</p>	④

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
14	<p>2035 年の温室効果ガス削減目標は「60%」では足りません。「1.5 度の約束」を守るためには、最低でも 66%以上が必要です。2035 年の温室効果ガス削減目標は 66%以上とし、それに見合った 2030 年目標の引き上げをお願いいたします。</p> <p>政府が示す 2035 年の温室効果ガス削減目標案の 60%は、「2013 年度」の排出量と比べた数字です。これは、日本政府も合意している国際的な目標の、地球の平均気温上昇を“1.5 度”より低く抑えようという「世界全体で 2019 年比 60%削減」が必要です。今の 60%は 2019 年比で約 50%減にとどまるものであり、世界全体での平均ライン以下ということになります。</p> <p>又、科学者の研究が示す 2035 年目標は「66%」も十分とは言えず、「81%」です。日本は世界で 5 番目の Co2 排出国であり、これまでに排出した量を踏まえ先進国としての責任があり、これから削減できる経済力や技術を踏まえた削減目標です。</p> <p>2035 年目標を最低でも 66%とし、81%を目指した上での、2030 年目標の引き上げをお願いいたします。</p>	<p>本計画では、2030 年度に向けて温暖化対策を推進していくとともに、中長期的な視点から 2035 年度について国と同等程度の目標を掲げています。</p> <p>今後の社会情勢や国の動向、本市の温暖化対策の進捗状況を踏まえながら、次期計画等で 2035 年度目標をあらためて検討してまいります。</p>	②
15	<p>地球温暖化対策には肉および牛乳・卵の消費を社会全体で減らすことも重要です。</p> <p>ヴィーガン・ベジタリアン、もしくは肉などの消費を減らしたい人が実践しやすいよう市でもできることをしてください。</p>	<p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②
16	<p>廃棄物の最終処理場がない市川市にとって、廃棄物量の削減は重要な課題であると認識しております。その中、一人一人の意識向上に寄与すると期待されるエコライフ推進員・じゅんかんパートナーの導入について、具体的にどんなことを行っているのか、効果があったのか、をより記載いただけたらと思いました。</p>	<p>エコライフ推進員、じゅんかんパートナーの活動については、環境白書、じゅんかん白書に記載していることから、本計画では P12、P67 での記載とさせていただきます。</p>	③

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
17	<p>概要p7の「再エネ導入目標」について太陽光、太陽熱に関することばかりだと感じました。</p> <p>この件に関して、意見させてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一つの再エネに固執しすぎると、もし転換が必要になった場合、ハイリスク&amp;高コストを負うこととなります。</li> <li>●他の再エネ導入も検討してみてもいいかでしょうか？</li> <li>●廃棄物処理基本計画の改定を受けて、パネルの廃棄に関する対応はどうなりますか？</li> <li>●太陽光パネルの農地利用に関して、パネルで土地を覆うと、土壌の機能低下につながり、土壌の機能低下につながりますが、太陽光パネル導入の利用制限は設けないのですか？</li> </ul>	<p>再エネ導入にあたり、環境省 REPOS(再生可能エネルギー情報提供システム)によると、本市のポテンシャルは太陽光及び太陽熱となっていることから、この2つを中心に再エネ導入を図る計画としております。</p> <p>太陽光パネルの廃棄については、現在国が検討していることから、国の動向を注視してまいります。</p> <p>太陽光発電設備の導入制限については、現時点では検討しておりません。</p>	②
18	<p>計画案に関して、全体的に車や建物関連の省エネがメインになっていると感じました。</p> <p>これらに関する措置を取ることで、ゼロエネには大きな削減効果が見込まれると考えます。</p> <p>ですが、ターゲット層が絞られてしまうことが懸念点として挙げられます。</p> <p>言い方を変えますと、車の所有者や物件所有者、世帯主向けの政策になっているため、車や家の所有者でない者(高齢者、若者)向けの対策の必要性が感じられます。</p> <p>例として、徒歩や自転車移動のしやすい街づくりにし、自動車の温室効果ガスの排出を削減するなどの施策で、若者がゼロカーボンに取り組みやすい街づくりの検討をお願いいたします。</p>	<p>高齢者、若者も含めた市民皆さんが地球温暖化対策に取り組みやすい街づくりを検討してまいります。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
19	<p>二酸化炭素排出量の削減目標が他地域と比較して高いことがとても嬉しかったです。また、目標達成のための施策も具体的でわかりやすかったです。</p> <p>ただ、二酸化炭素排出量削減目標はもう少し上げる必要があると思います。日本政府の削減目標は 2035 年に 60%ですが、様々な NGO 団体が最低でも 66%必要と考えております。また、国が 60%なら提示をした際、パブリックコメントが 3000 件以上集まり、目標数値の見直しの必要性が高まっています。理由は、国の提示した 60%は IPCC 基準では 49%程度に留まっているからです。</p> <p>そのため、市川市の目標としても 66%以上の目標を希望します。</p> <p>その目標を達成するための施策の中に、廃棄物の削減や廃棄物処理の際に出てくる熱エネルギーの有効活用が記載されていました。廃棄物の削減に関しては、リユース文化の醸成など意識に関するものが多かったです。リユースサービスである Loop の設置や量り売り店の誘致、給水スポットの拡大などリユースの行動を市民が行いたくなる仕組みを施策として入れて欲しいです。また、熱エネルギーの回収が資源化の 1 つとして考えられるのは日本だけです。プラスチックを作る際も燃やす際も二酸化炭素を多く出すので資源化とは言えないと思います。熱エネルギーの回収ではなく、廃棄物の削減に関してより重視する問題として、市民の行動を変える具体的な施策を求めます。</p>	<p>本計画では、2030 年度に向けて温暖化対策を推進していくとともに、中長期的な視点から 2035 年度について国と同等程度の目標を掲げています。</p> <p>今後の社会情勢や国の動向、本市の温暖化対策の進捗状況を踏まえながら、次期計画等で 2035 年度目標をあらためて検討してまいります。</p> <p>また熱エネルギーの回収については、可能な限りプラスチックをはじめとした廃棄物の削減を図り、それでも出てしまう廃棄物を焼却する際の熱を有効活用するものです。</p> <p>廃棄物削減についてのご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
20	<p>街路樹の落ち葉を清掃するために、行政がそれを吸い込むバキュームカーで処理するのは欧米では一般的だが、日本では道路事情もあるのか、日本では普及していない。しかし、街路樹沿いに住む市民の中に、この「落ち葉」をととても気にする方がいるので、今後は欧米に見習って普及を考えるべきではないだろうか？奈良県や神奈川県の一部市町村で、すでに導入している例がある。</p> <p>また、家庭用の安価な小型落葉清掃具を希望者に配布するか、購入を進める場合には補助金制度を設けてはどうだろうか。</p>	<p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただくとともに、主体的に検討する所管部署に情報共有させていただきます。</p>	②
21	<p>市川市内の日射や路面からの放射熱を減らしヒートアイランド現象を防止する「緑の日傘」となる樹木に関し、「緊急要望書」A7 で指摘した「緑被率と緑化率」の指標は、現在でも日本では有効ではあるが、最早時代遅れとなっている。</p> <p>土地の面積に対し、樹冠(枝や葉が茂っている部分)が占める割合である「樹冠被覆率」が FAO(国際連合食糧農業機関)など国連機関の事業の認定基準にも採用されているが、国内ではまだ浸透せず東京都でさえ採用が遅れている(東京都は、水辺も含めた「みどり率」を採用)。市川市が全国に先駆けこの指標で現状を測定し、緑化施策を推進したらどうだろうか。</p>	<p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただくとともに、主体的に検討する所管部署に情報共有させていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
22	<p>市川市は、江戸川河口から東京湾にかけての海域に、風がなって風力エネルギー資源に恵まれています。この貴重なエネルギー資源を大いに活用したいものです。そのための手段として、「帆掛いかだによる発電・蓄電・売電システム」を活用することを提案させていただきます。</p> <p>江戸川河口の一角を拠点として、「帆掛いかだ」を海上に浮かべ、帆に風を受けて、水車とスクリーンが廻り、発電・蓄電してから、拠点に戻ります。そして電力需要の多い(値段の高い)時間帯に売電するシステムです。</p> <p>漁業や船舶の航行に支障が生じないように、電力タグボートで曳航しながら、蓄電の運転監視制御も、タグボート上で行います。</p>	<p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②
23	<p>計画案と理念はキャッチフレーズに欠け、総花的で魅力がない。市民の誰もが納得する分かり易いものになっていない。どこの街も言っているのと同じで、市川市に即したものになっていない。都市近郊の街として、他市との差別化を明確にうたうことが肝要</p>	<p>人口が多い住宅都市、また東京近郊であることから事業所が多い本市としては、地域性を踏まえ、市だけではなく、市民、事業者のみなさん全員で地球温暖化対策に取り組む必要があると考え、「みんなのミッション」としています。</p> <p>いただきましたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>	②
24	<p>本実行計画案は言ってみれば教科書風で、温暖化について知っている人間には不要、知らない人間には素通りしたくなる体裁と構成である。普段、温暖化に関心を持たない人間の目を引き付けるエッセンスに欠けている。「ICHICO」や「市サポ制度」や「居眠り防止カメラ」のような斬新なアイデアに欠ける。</p>	<p>温暖化に関心を持たない方の目を引き付け、行動変容に繋がられるよう、今後も施策を検討してまいります。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
25	<p>この計画で 2030 年までに炭酸ガス排出を 50% 削減できるとは考えられない。それぞれの対策による削減量の見積もりが甘いのではないか。例えば、2013 年度から 2025 年度の削減目標が 2013 年度段階で 33%だったが、実際は 13%に止まっている。しかも、この 13%は国の削減率と同じで、市川市の内容が明確でない。ただの掛け声に近い。また、実現のために必要な予算計画(例えば新 1%支援制度…市サポ制度…のような)を定量的・具体的に述べ、実施にあたっての市の構造改革と市条例を市議会の議案とすることが肝要であるのに、それには触れていない。</p>	<p>2030 年度 50%削減に向けて、第三次計画によりあらためて地球温暖化対策を強化してまいります。 また、対策実施に必要な予算の確保に努めてまいります。</p>	②
26	<p>市川市の未来のあるべき姿を思い描いてのバックカスティングになっていない。計画立案者には未来像が見えていない。</p>	<p>2050 年度カーボンニュートラル達成に向けて、地球温暖化対策に取り組んでまいります。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
27	<p>2013 年度比 50%削減を達成するためには 53・54 ページ及び 77・78 ページに書かれている全ての項目を実現しなければ達成は見込めないという、大変過酷な内容である。それなのに、各項目において記述されている「具体的な施策」の内容が、あまりに実効性が無さすぎる。例えば「事業者等のエネルギー対策の推進」(60 頁)で、補助金交付・情報提供・普及啓発といった、こちらから一方的に球を投げる施策だけでは、実際に事業者が実施し、削減結果に繋がるかどうかは定かではない。それが具体的な施策と言えるのか。「住宅へのエネルギー対策の推進」(同 60 頁)においても普及啓発・導入補助を行っても、実施に繋がるかは未定だ。「とりあえずやれることをやればよい」わけではなく、必ず実行へ導き、削減効果を出さないと今回の計画は意味がない。実行計画の作文をどうするか?という問題ではなく、実際に計画が遂行される施策を編み出さなければいけない。その実現の鍵となるのが、市と事業者、市と市民との連携の在り方である。この在り方も計画に記載されているが、はっきり言って不十分である。たった一部の事業者、たった一部の市民と連携しているのが現実であり、これを大部分の事業者と大部分の市民との連携に拡大させていかねばならない。そのためには時間を使い、足を使い、気も使い、一事業者、一地域を何度もまわりながら、この計画を一緒にやってくれませんかと説得してまわり、関係性を築き上げていく必要がある。計画ではさらりと一行で書ける「市と市民と事業者の協働」だが、その関係性を構築するのにはかなりの汗をかかないといけない、といった背後の努力も覚悟してほしい。</p>	<p>基本理念にも示したとおり、地球温暖化は市だけではなく、市民、事業者の皆さんと一体となって推進していく必要があると考えております。</p> <p>市民、事業者の皆さまへは引き続きご協力をお願いしてまいります。いただきましたご意見は、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
28	<p>市川を自転車都市にすることにより、エコでもあり、また健康にもよいと考えます。自転車で走っていると、色々な課題もあり、日々みんなで話し合い、アイデアを出しています。電気自動車にするのもひとつの考えと思いますが、自動車→自転車へと、意見としてではなく、提案としたいと思います。</p>	<p>これまでも自転車走行空間等の整備について取り組んでおり、今後も自転車の利用促進等の施策を推進してまいります。</p>	③